

令和7年度国際交流員通信 2

青島市にご用心☆

皆さん、こんにちは、王涛です。

前回の国際交流員通信は「ぴえん」ばかりだったので、担当者に「今月のぴえん通信はまだかな」と聞かれてしまいました。こんな印象しか残っていないのはまずいな…とちょっと冷や汗が出ました。というわけで、今回はぴえん通信ではありません。今回のテーマは「青島市のいろいろ」です。

きっかけは、先日、下関市の「青島市大学生サマーキャンプ」の参加者に向けて青島市を紹介したことです。観光地だけを並べたパンフレットみたいな紹介はつまらないと思ったので、今回は少し観光地を取り上げつつ、エピソードも交えて紹介したいと思います。

まずは、中国でのイメージからお話しましょう。

一言でいえば、「きれいな海があって、海鮮が美味しい観光都市」です。青島市は山東省の南東部に位置し、黄海に面しています。中国の多くは内陸地域で、海を見たことも、新鮮で豊富な海鮮を食べたこともない人が少なくありません。さらにきれいな観光スポットがあって、夏でも比較的涼しく過ごしやすい都市はそう多くないので、青島市はかなり人気の観光地です。ちなみに、私は青島市に10年ほど住んでいますが、普段は観光スポットにはあまり行かないのです。——観光客で混雑する場所より家でのおんびりするほうが好きだからですね。

では、青島市のいろいろ（観光関連）を紹介します。

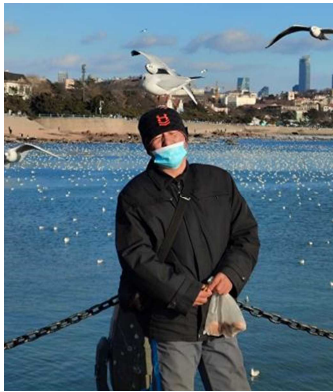
海に溺れないようご用心

青島と言えばやはり海ですね。天気のいい日に行くのを強くおすすめします。曇りの日は日焼けをしない分はいいですけど、目にする景色の雰囲気がいだいぶ変わってくるので、やはり晴れた日がいちばんです。海の青さと空のコントラストは太陽の下で輝きます。

青島市には第一海水浴場、第二海水浴場が有名で、毎日潮の満ち引きを見計らって（時刻表がありますよ）、浜辺でハマグリやマテガイなどを掘ったりする人がたくさんいます。

青島特有の風景として「チョコレートお爺さん」が非常に面白いです。お爺さんたちは毎日泳いだ、ビーチバレーをやったりして、日焼けがすごくてまるでチョコレートのような色になっています。彼らは泳ぎの達人です。海を見て興奮しすぎて、海の怖さを知らずに溺れそうになった観光客を救うニュースが時々あります。





「カモメお爺さん」もいます。青島市は冬でも零度以上と比較的温かいので、たくさんのカモメが越冬に訪れます。そのため冬の時期、11月から翌年4月まではカモメの餌やりが大人気です。パンを持って手をあげると、カモメたちが飛んで食べに来ます。ちなみにパン以外にもフライドチップスと中華揚げパンが大好物だそうです。毎日餌をやっているお爺さんにはカモメが懐いていて、よく頭の上に止まっています。その微笑ましい光景は面白いです。

(そういえば、気候が似ているのに、なぜ下関ではカモメをあんまり見かけないのでしょうか。)

痛風にご用心

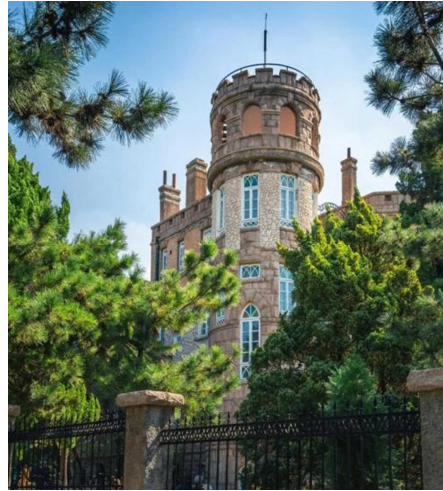
海の幸に恵まれた青島市では、新鮮な海鮮を思う存分に楽しめます。そして、全国的に知名度が高い青島ビールも一緒に味わわない手はありません。夜になると、路上にはたくさんの屋台が並び、ビール飲みながら、焼肉や焼き海鮮をたらふく食べる人で賑わいます。——でもね、海鮮＋ビールは、まさに最強の「痛風セット」なんです。その「おかげ」か、青島市の病院は痛風治療に非常に強いと言われています。

ここで豆知識ですが、地元の人が多くかかる病気の治療に関して、その地域にある病院のレベルは全国的に見ても高いという傾向にあります。青島なら痛風治療が強いのはその一例です。患者が多ければ多いほど、医師の技術もどんどん向上していくというわけです。ちなみに四川省成都市は胃腸の病院がすごいです。あそこは辛いものばかり食べているからですね。広東省は高温多湿で蛇が多いため、蛇毒の治療に強い病院が多いそうです。

海鮮の話に戻ります。下関も海鮮がおいしいですね。でも残念ながら、私は海鮮にあまり興味ないので、せっかくの下関生活を少し損している気がします。もし海鮮が好物の人なら、ここはまさに楽園でしょう。ちなみに私は牛肉が好きです。

足の疲れにご用心

青島の特徴的な建物といえば赤いレンガの建物です、かつてドイツの租界地だった歴史があるため、当時の西洋風建築物が残っています。晴れた日に、青島の中央部である市南区の山に登ると、「赤い煉瓦、緑の木、青い海と空」が一体となった風景を満喫することができます。



ほかにも有名な観光スポットに「八大関（バダグアン）」があります。「万国建築博覧区」と呼ばれる別荘地で、欧米や日本などのさまざまな建物と緑豊かな並木道が魅力です。静かな雰囲気の中、散策したり、写真を撮ったりするのに最適な場所です。ただし、このエリアはとても広いので、全部を歩き回るだけでも2～3時間かかります。もし気になる建築物の中を覗いてみたいと思ったら、さらに時間が必要になります。

青島の観光スポットは比較的に密集しています。栈橋から第一海水浴場、そしてオリンピックセーリングセンターまで、車や地下鉄を使う必要はなく、歩いて回れます。ただ、暑い日に一日中歩き回ると、きっと疲れてしまうでしょう。特に足が疲れてパンパンになるはずです。そんな時は、足つぼマッサージ店に入って、足浴を体験してみてください。これも立派な文化体験のひとつですよ。

旅の途中では、私はよくミルクティーを飲みながら観光するのが好きです。中国のミルクティー店は日本のコンビニのように至る所にあります。特にショッピングモールの近くには6、7店舗も並んでいることがよくあります。いつか私のお気に入りのミルクティーを紹介したいと思いますので、楽しみに！